ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E112N002	英語科授業論 (Practical Theory of English Language Teaching)		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	2	3	教育学部 ≪令和２年度以降入学生用≫		火3	日本語	英語	単独

担当教員	氏名　大谷　由布子 E-mail　otaniyuko@oita-u.ac.jp　内線　7580
授業の概要	英語の学習・指導・評価方法に関する知識・理解を深めるとともに、実践的な英語指導技術を身に付ける。授業では、講義だけでなく、ペアやグループに分かれて、ディスカッションやデモレッスン等の協同学習を行う。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7
目標1	学習指導要領や教科書、学習者の特性について理解を深め、教育実践に関連付けることができる。	○		○				
目標2	英語教育実践に必要となる基本的な指導技術を身に付け、デモレッスンで応用することができる。	○	○					
目標3	生徒の理解に応じて調整しつつ、英語で授業ができるようになる。		○	○				
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度（計10）		3	4	3				

授業の内容

1	ガイダンス
2	世界の英語教育、日本の外国語教育
3	学習指導要領とカリキュラム
4	外国語教育の目標と評価
5	コミュニケーション能力と言語活動
6	ティームティーチング（デモレッスン）
7	教科書と教材
8	単元指導計画の作成
9	学習指導案の作成
10	第二言語習得研究の応用
11	技能統合型の指導（デモレッスン）
12	学習者特性と学習方略
13	英語教育におけるユニバーサルデザイン
14	英語教師としての成長
15	まとめと振り返り

アクティブラーニング				
A:知識の定着・確認	○	予習と復習を通して、省察・考察を深める。学習した内容をデモレッスンに応用する。	その他の工夫	
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	予習課題への取組（15時間）
	事後学修	学習内容の見直しと振り返り、課題への取り組み（30時間）
	想定時間合計	45

教科書	酒井秀樹・廣森友人・吉田達弘『実践的英語科教育法』（2018）大修館書店 その他にも毎回資料等を配布する。
参考書	『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　外国語編』文部科学省 『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　外国語・外国語活動編』文部科学省

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業内での取組・課題への取組	40%	○	○	○							
	デモレッスン	30%	○	○	○							
	定期試験	30%	○	○								

注意事項	
備考	この授業は「地域創生教育科目」です。
リンク	
URL	
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	英国出版社における英語教材開発／文部科学省外国語教育推進プロジェクトオフィサー
実務経験をいかした教育内容	産官の視点を共有し、英語教育をより多角的にとらえられるようにする。